

作成: 芝崎

45. サラリーマン時代の思い出篇: もんじゅの訪問

1995.12 高速増殖炉「もんじゅ」のプラントでは冷却用の Na 配管から漏洩/火災事故、隠ぺい等発覚し休止となる。唯一納入した補助ボイラ(初期の稼働のみ使用)があり、予定通り、1996.2 に安全弁の定期検査を行うように依頼あり。寒い時期の日本海の沿岸にあるプラントに出張した。このプラントに入場には、1ヶ月前に写真を送り、申請する。何の為かと思ったら、プラント入場時、自動改札機と同等のものがああり、入場退出の確認用の ID だった。現在では普通であるが、当時はこんなあれば、通勤時便利だなあと思ったが、その後各鉄道会社が設置したようだ。このプラントのスタッフは各発電所から期限付きで出向(3年間らしい)、なんとなく纏まりがない組織のように感じた。期限まで自分の役割を果たせばという感覚のようだった。訪問した時は静かであったが、前日まで正門前にはたくさんの報道陣で賑わっていたとの事であった。点検は予定通り無事完了。ふと、いつ稼働するのかなあと、思ったが、2010.5 に再度試運転開始(14.5年近くになる)したが、炉内中継装置を原子炉内容器に落下事故等を引き起こす。再度試運転中止。さらに、2011.3 の福島原発事故で、さらに安全点検した結果問題続出、2016.12 について廃炉決定、結局、定格出力運転もしていない…税金も無駄使いの印象が残る。開いた口がふさがらず!!

笑いのポイント(笑点)

さんにん: (三人)以上の集まって

よ: 寄(よ)り過ぎなのか、多くの人材活用したのでは?

れ: 連(れ)鎖するトラブル、何故か知恵なく、

ば: 漠(ば)然した組織、その時こそ、文殊の知恵を出すべきだったのでは?

もん: 文殊(もん)菩薩様どう思っているか、なんかあきれて笑っている気がする?

じゅ: 呪文(じゅ)を唱えてももう遅い…文殊(もんじゅ)頼みにならず

の: 軒(の)並み失敗が続き、ついには福島原発の安全対策の水平展開から多くの問題点発生

ち: 知恵(ち)を集めたのか、そのかけらもない?どこまでも「負の連鎖」に、結果は廃炉

え: 得(え)がたい知識人の知恵の結集ができなかったことはとても残念だ。

➡ 「もんじゅの知恵は生かされた?」「名前倒れの印象も拭えない」多くの疑問が残る。

「もんじゅ」の命名から間違え、そのトラブル続き、もう、受(じゅ)難から逃れなくなってしまった。



高速増殖(消費した量以上に燃料を生み出す)炉:
「もんじゅ」



文殊菩薩

以上